

(昭和七年六月十五日) 刊日便郵種三第
可認物便

〔一〕 號 一 十 七 百 五 第

【日曜土】

常磐時評

夕刊

開業醫と重大なる社界問題

最近の小名濱の出来事であるが、夜半午前三時遅に急病人が出来、苦痛を訴へる叫びに隣近所迄も夜半起出して見舞ひ手當等もしたが素人にては如何其手の下しようなく、爲め六七名の者が醫者の門を叩き往診を乞ふた、然るに相談した如く四名の醫者は往診中で留守であつたが居留守を使つたか確めない限り筆者として餘り突込んだ論議立はしたくないが

茲に大きく論議しなければならぬのは、醫者と社會人の關係である、夜半たりとも急病人が出来一注射を施せば今快すべきものを睡いが故に少の料金で起出す苦痛の爲め居留守をするとしたら社會人として町民として安心して業に服せぬ事になる、米屋が聯合して米を賣らぬ事になつた以上の重大なる社界問題として取扱はなければならぬ、泣く児には百萬の金より乳が有難い、急病患者には何物よりも醫者を要求する、その醫者が言ひ合せた様に何れも留守だとすればその失望は重大なる社界問題として取扱はなければならぬくなる、今や醫藥分業の擡頭を見、産業組合が組合醫を置くなどの喧しき折柄、醫者自身として社界的重大なる位置にある事を自覺し、社界の人生を擔當する活潑の衝にあたる使命を料金の多寡又は睡い位で居留守をするとするれば醫は仁術の大義にも戻り醫術は營業税を課せずの本義迄も没却する結果となる、斯如き行為が當時茶飯事として常習とすれば社界的制裁の方法を講じなければならぬ事になる、切に一考を煩し度き問題である。

唯一の豊間・金華山間　犬吠・鯛漁で、未曾有の大群
小名濱　不振の郡下上　工費十八萬圓を投じて昭和七年以降三ヶ年計画で第一期工事の竣成を見た豊間漁港築港は同工事により港内千五百平方メートルが掘鑿されたが同港漁船全部を収容出来る引續き第二期工事施工去る四日茨城縣助川町大瀬大謀網を訪れた黒潮に乗つて櫻綱の大群は既報の如く稻妻型の進路を辿つて本懸沖合に近づきつゝあつたが早くもその先鋒を見られる一群は小名濱町高橋入丸の兩大敷網附近に廻游し八日の水揚は大鯛千八百貫、小鯛四百貫合計二千二百貫の大漁でその賣上高一日で五千三百餘圓あり各大敷網事務所では今度の鯛漁によつて一舉に從來の不振を挽回すると張込んでゐる尚相場は二十割乃至二十六割で主として東京送りであるがこの大群が本格的に網へ入れば十五六割台まで暴落するものと豫想されてゐる

間漁港の避難港

第二期工事

として
重要性
實現の猛運動

機船底曳 在熊本 中
君に生の状態二隻は全
非を論すより考へ思ひますには國法
互の行動れ迄は日本で進んで船を暴な考へするに組
如何なるするに組從業して話に預け下百三十の百二十ののである
かに十六と言はねたのである
の百二十ののである
の百二十ののである

事可で其時は何所迄も其のまゝへぬ顔して居るのは絶対に可で、本縣に一雙でも一頃でも加する事に絶対に認められても尙止めぬ場合は、組合でも一切其れが復活で最も親切な方法であつて、勿論農林省でも今後多す。勿論農林省でも今後此等のことを記憶して頂きたい存じます。（續く）

泉驛前藤野屋旅館方よ
朝七時頃出火し同家屋
を半焼したが駆付けた
消防隊の活躍により大
至らず消し止めたが附
湯本町の撒水
湯本町上町の江戸屋こ
尾清は同町に撒水車の
なく、酷暑に向ふ折柄
とも必要な事を痛感
仕的事業としその計畫
めて居た處、町當局の
處となり近く有力者
の下に實現する事にな
る

特報		(九日)
船沖合狀況		
場	水溫	漁獲物 記事
二二度	かつを二〇〇〇尾	かつを七〇〇尾
不明	漁無し	
全		
入港船		
	魚獲高	
告		
立局	菊地	高位
六局	鈴木	秀壽
六日限り退社セリ		
係ナキ事ヲ社告ス		
小名濱出張所		
長料工業株式會社		
の魚粉末		
(フィッシュミニール)		
肥料として		
度御試験の人は保証す		
本持參社員が御説明申上ます		
常磐新聞社		
貯蓄		
電話四七番		
名は至急御來談下さい		
常磐新聞社		



成 果

多賀達夫
ある父と母

【二】

健二 あ、覚えてるよ。

活動的歸りだつた、友達

がおござるつてわけですね。

——全く偶然だつた、あれ

は。へんてこな小説に

ばかりでなく、現實にも

あつい事があるんだか

らな。

時子 あの時も申しました

けれど、あたしお嫁に行

つてから三月かそこらで

逃げたでせう。何かい、

仕事があると思つてお友

達のゐる神社へ逃げた

だわ。でもそれが駄目だ

つたの、それで思ひ切つ

て女給になつたんだわ。

そしてさうなつてら、も

ういなかのね、轉々と

何處までだつてきがな

いのね。林美美子の放浪

記、あれを古本屋から買

つて來てしまひと讀ん

だのもあの頭だつたわ。

健二 それで、其の頃僕の

働いてゐたN市に來た

のは僕のゐるつてこと知

つてなの?

時子え、お目にかかりた

くはなかつたけど、お噂

位は聞きたかつたわ。そ

れであそこへ流れを行

つたんだわ。——でも、時子

え、お目にかかりた

はすぐ飛行機で再び離

れて出席した。そしてズウ

骨にさらけ出して

『歐米視言』

はすぐ飛行機で再び離

れて出席した。そしてズウ

骨にさらけ出して

『歐米視言』

佐藤代議士を描く

【五】

在 米 佐々木修一

彼佐藤代議士は『日本人』編で一場の歐洲視察談
ンセルス日本人新聞に掲載せられたるもの

與太は

迎 欽 稿 投



(暗恋生)

健二 (何か云はうとして

云ひ流む)

時子 あなたは少しもあたしを

いぢめないで、元通りの

沈黙して) それが一べ

でせう。——あたしまる

健二 第一君と一番先に事

なつかつたら、君だつ

だ。——それに僕たちの

間柄が一時の氣まぐれで

ある時元通になつたんで

……

時子 でも、偶然だつたに

しろ、とう(お目にか

ればかり口惜しがつてゐ

たんだ。

健二 そんなことを氣にし

てゐたの。僕はまた結婚

……

時子 あなたは少しもあたしを

いぢめないで、元通りの

沈黙して) それが一べ

でせう。——あたしまる

健二 第一君と一番先に事

なつかつたら、君だつ

だ。——それに僕たちの

間柄が一時の氣まぐれで

ある時元通になつたんで

……

時子 でも、偶然だつたに

しろ、とう(お目にか

ればかり口惜しがつてゐ

たんだ。

健二 そんなことを氣にし

てゐたの。僕はまた結婚

……

時子 あなたは少しもあたしを

いぢめないで、元通りの

沈黙して) それが一べ

でせう。——あたしまる

健二 第一君と一番先に事

なつかつたら、君だつ

だ。——それに僕たちの

間柄が一時の氣まぐれで

ある時元通になつたんで

……

時子 でも、偶然だつたに

しろ、とう(お目にか

ればかり口惜しがつてゐ

たんだ。

健二 そんなことを氣にし

てゐたの。僕はまた結婚

……

時子 あなたは少しもあたしを

いぢめないで、元通りの

沈黙して) それが一べ

でせう。——あたしまる

健二 第一君と一番先に事

なつかつたら、君だつ

だ。——それに僕たちの

間柄が一時の氣まぐれで

ある時元通になつたんで

……

時子 でも、偶然だつたに

しろ、とう(お目にか

ればかり口惜しがつてゐ

たんだ。

健二 そんなことを氣にし

てゐたの。僕はまた結婚

……

時子 あなたは少しもあたしを

いぢめないで、元通りの

沈黙して) それが一べ

でせう。——あたしまる

健二 第一君と一番先に事

なつかつたら、君だつ

だ。——それに僕たちの

間柄が一時の氣まぐれで

ある時元通になつたんで

……

時子 でも、偶然だつたに

しろ、とう(お目にか

ればかり口惜しがつてゐ

たんだ。

健二 そんなことを氣にし

てゐたの。僕はまた結婚

……

時子 あなたは少しもあたしを

いぢめないで、元通りの

沈黙して) それが一べ

でせう。——あたしまる

健二 第一君と一番先に事

なつかつたら、君だつ

だ。——それに僕たちの

間柄が一時の氣まぐれで

ある時元通になつたんで

……

時子 でも、偶然だつたに

しろ、とう(お目にか

ればかり口惜しがつてゐ

たんだ。

健二 そんなことを氣にし

てゐたの。僕はまた結婚

……

時子 あなたは少しもあたしを

いぢめないで、元通りの

沈黙して) それが一べ

でせう。——あたしまる

健二 第一君と一番先に事

なつかつたら、君だつ

だ。——それに僕たちの

間柄が一時の氣まぐれで

ある時元通になつたんで

……

時子 でも、偶然だつたに

しろ、とう(お目にか

ればかり口惜しがつてゐ

たんだ。

健二 そんなことを氣にし

てゐたの。僕はまた結婚

……

時子 あなたは少しもあたしを

いぢめないで、元通りの

沈黙して) それが一べ

でせう。——